

特集2 防災はまず自分から

災害の被害を減らすには、一人一人の防災意識を高める必要があります。避難経路の確認、情報の収集や防災訓練など、個人や地域でできることはたくさんあります。正しい知識を持ち、いざという時に備えましょう。

地域の助け合いが

防災の力

災害が発生した場合、警察や消防、市などは全力で救助活動を行います。しかし、「道路がふさがり現場に行けない」、「情報がうまく伝わらない」、「多発的に被害が発生している」などの理由で、各機関の活動能力が著しく低下する場合も想定されます。

このような事態では、わたしたちが「身の安全を確保する」「ラジオやメールなどで情報を収集する」などで、自分たちの身は自分たちで守ることが重要になってきます。そして、地域でお互いに支え合う備えが欠かせません。

個人、地域で

災害に備えよう

被害を最小限にするには、公的機関の救助だけに頼らず、個人、地域が連携することが大切です。

まず個人では、非常持出品の準備や避難場所の確認、防災メールなどによる情報収集など身の回りの安全対策を行ってください。

そして、日頃から、地域の防災訓練に参加するなどして、いざというときに、家族や地域が協力できる体制を確認してください。

特にこれから、台風や豪雨などの発生が多い季節になります。いつ起こるかかわからない災害にあらかじめ備えましょう。



1 無線の通信訓練などが行われる野尻八所地区の防災訓練
2 地元消防団も訓練に参加する須木地区の防災訓練

防災の知識、技能を身に付けよう

防災士・防災リーダー

防災士は、災害に関する高い知能、意識や技能を持つ民間資格。大規模災害の教訓や、防災意識の高まりから全国的に防災士の資格を取る人が増えてい

ます。県では、昨年度の取得者が過去最高の495人。今年4月末現在で、合計1210人になりました。防災士は、自主防災組織

づくりの助言や、避難訓練で防災の知識を分かりやすく伝えるなどの活動を行っています。

資格を取るには、県が実施する研修の受講、試験の合格、救急救命講習を受けることが必要。時間がかかり、費用も発生します。そこで、市では昨年、独自に「市民防災リーダー」

制度を導入。費用もかからず、1日で取れる資格です。講習では、災害、気象の仕組みや救急救命について学習。ヒモやロープの縛り方などの実技指導も受けます。

防災リーダーは、現在209人。市では、新たに200人の養成を目指しています。

これらの資格を持つ人が地域に増え、防災の中心となることで、災害に強いまちをつくることができま

「九州一安心安全なまちづくり」に、市民として参加したいと思



市民防災リーダー ふるかわ あきら 古川 明さん

Interview 防災リーダーに聴きました

多くの人に参加してほしい

4 防災士講習で図上訓練 5・6 昨年の防災リーダー講習には99名が参加。災害対応について学びました



防災メールに登録しよう

携帯電話やスマートフォンで、災害に関する情報をメールで受け取ることができます。下のQRコードを読み取ることで、簡単に利用登録ができます。



小林市防災メール QRコード

防災士、防災リーダーの申し込み、防災メールの登録については、危機管理課 (Tel 23 - 1175) まで

6月から8月は雷が多くなります。雷の音が聞こえたり光が見えたら、落雷の危険があります。以下のことに注意して身を守りましょう

雷に遭遇したときは安全な場所へ避難

鉄筋コンクリート、自動車、バス、列車の内部は比較的安全です。木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井、壁から1m以上離ればさらに安全です。

安全な場所に避難できない場合の対応

安全な場所がない場合は、高い物体を45度以上の角度で見上げ、4m以上離れた範囲に避難してください。木の近くでは、全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。また、姿勢は低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分経過してから移動しましょう。

